

第5章 学生の受け入れ

1. 現状分析

評価項目①

学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公平、公正に実施していること。

＜評価の視点＞

- ・学生の受け入れ方針は、少なくとも学位課程ごと（学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程）に設定しているか。
- ・学生の受け入れ方針は、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法を志願者等に理解しやすく示しているか。
- ・学生の受け入れ方針に沿い、適切な体制・仕組みを構築して入学者選抜を公平、公正に実施しているか。
- ・入学者選抜にあたり特別な配慮を必要とする志願者に対応する仕組みを整備しているか。
- ・すべての志願者に対して分かりやすく情報提供しているか。

《アドミッション・ポリシーの策定》

- 本学では、『3つのポリシー策定の基本方針』に基づき、大学全体、学部・研究科(学位プログラム)単位で学生の受け入れ方針（以下、アドミッション・ポリシー）を策定している。各アドミッション・ポリシーでは、カリキュラムを通して、本学の卒業生・修了生となり得る意欲・資質を有する学生を入学者として得るため、求める学生像、入学に際し求められる学力の水準、入学者選抜などの方針を示している。

（大大評5-1 法人ホームページ「各種方針」「アドミッション・ポリシー」）

- 大学全体のアドミッション・ポリシーでは、本学は、学是「仁」と理念「不断前進」に則り、学風（三無主義）を掲げ、自己研鑽・競争原理及び相互信頼の下に高い倫理観に基づく教育、研究、臨床を実践していることを説明し、求める学生像、多様な入試制度を準備して評価を行うことを明示している。

大学全体のアドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

順天堂大学は、1838年、学祖佐藤泰然が江戸薬研堀に開設した西洋医学塾に端を発し、今に繋がる日本最古の医育機関です。学是「仁」（人在りて我在り、他を思いやり、慈しむ心、これ即ち「仁」）と理念「不断前進」（現状に満足せず、常に高い目標を目指して努力し続ける姿勢）に則り、「出身校、国籍、性による差別無く優秀な人材を求め、活躍の機会を与える」という学風（三無主義）を掲げ、自己研鑽・競争原理及び相互信頼の下に高い倫理観に基づく教育、研究、臨床を実践しています。

本学は、医学、スポーツ健康科学、看護学、理学療法学、診療放射線学、臨床検査学、臨床工学、国際教養学、健康データサイエンス学及び薬学の理論と実際を教授・研究することにより、国際的な広い視野を持ち、高度な専門知識とスキルを基盤に科学及び技術の水準を高め文化の進展に寄与し、地域社会や国際社会の発展と人類福祉の向上に貢献できる人材の養成を目指しています。

学士課程では、上記のような人材養成目的を実現するため、次のような意欲と資質を有した学生を国内外より求めています。そのために多様な入試制度を用意して公正かつ適切に評価します。

1. 本学の学是「仁」及び理念「不断前進」を理解し、自らの持つ感性と倫理観を絶えず磨いていく意欲の高い人
2. 自ら主体的に学び、自ら積極的に取り組み、解決の道を切り拓くことにより人間的成長を強く志向する熱意がある人
3. 専門知識を高め、論理的思考力と確かな技能を身に付けるための基盤として、高等学校等までにおける教育課程で修得した基礎的な学力を有している人
4. ボランティア活動、課外活動などこれまでの特徴的な活動を通じて思いやり、奉仕の心、協調性を

第 5 章 学生の受け入れ

有している人

5. 幅広い人間性と柔軟性を備え、外国語を含むコミュニケーション能力を身に付けていく強い意志と意欲を持つ人

大学院では、次のような意欲と資質を有した学生を国内外より求めています。そのために、各研究科各課程において求める学生像に基づき、多様な背景を持つ志願者に対応する入試制度を用意しています。研究計画を含む出願書類の内容、学力試験、面接試験などによって、入学段階で備えているべき資質や能力、専門性を公正かつ適切に評価します。

1. 本学の学是「仁」及び理念「不断前進」を理解し、自らの持つ感性と倫理観を絶えず磨いていく意欲の高い人
2. 研究者として、自ら課題を設定し、独創的な学術研究に意欲的に取り組み、学術の進展に貢献しようとする志のある人
3. 高度の専門性を発揮する職業人として、社会の発展に貢献しようとする志のある人
4. 学問に対する知的好奇心、専攻分野の基盤となる知識・技能、柔軟な思考力とを兼ね備え、新たなことに挑戦しようとする強い目的意識を持っている人

- 各学部・研究科においては、大学全体のアドミッション・ポリシーとの整合性を図るとともに、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ、それぞれアドミッション・ポリシーを定めている。例えば、**医学部**では、「求める学生像」、「大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等」、「入学者選抜の基本方針」を具体的に明示している。

医学部アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

求める学生像

医学部では、医学・医療の知識・技能のみならず豊かな感性と教養を持ち、国際社会や地域社会に貢献し、未来を拓く人間性溢れる医師・医学者を養成するため、次のような学生を求めます。

1. 一人の人間として、人間と自然を愛し、相手の立場に立つ思いやりと高い倫理観を有する人
2. 幅広い人間性、柔軟性と協調性を備えた基本的なコミュニケーション能力を有する人
3. 自ら課題を発掘し、知的好奇心を持って、課題解決に取り組む主体性を有する人
4. 国際的な視点から医学・医療の進歩に貢献しようとする熱意を有する人
5. 入学後も、自己啓発・自己学習・自己の健康増進を継続する意欲を有する人

大学入学までに身に付けておくべき教科・科目等

医学部では、大学入学までに高等学校等において、次の教科・科目等を身に付けておくことが望まれます。

1. 理科：物理、化学、生物についての十分な知識と科学的な思考力・探究心
2. 数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学 A、数学 B、数学 C についての十分な知識と論理的思考力
3. 英語：国際社会で活躍するための基礎的なコミュニケーション能力、十分な読解力、表現力、思考力、会話能力、言語や文化についての理解、TOEFL-iBT 72～83 点程度／IELTS 5.5 程度、もしくは同等水準の英語能力
4. 国語：十分な文章読解力、文章構成力、論理的表現力
5. 地理歴史・公民：地理総合、地理探究、歴史総合、日本史探究、世界史探究、公共、倫理、政治・経済についての基礎的な知識
6. 特別活動及び課外活動等を通じた主体性、協調性、思いやり、奉仕の心

入学者選抜の基本方針

医学部では、医師・医学者になろうと努力する学生に対し、6 年間で卒業し、ストレートで医師国家試験に合格させるよう教育しますが、単に医師国家試験合格だけをを目指すのではなく、国家試験をものとしめない、知性と教養と感性溢れる医師・医学者を養成するため、入学者選抜方法として、学力試験のみならず、受験生の感性や医師・医学者となるべき人物・識見・教養を見極めるために、小

第5章 学生の受け入れ

論文試験・面接試験を課し、また、小中高に至る活動を知る資料の提出により、総合的な判定に基づき、入学者を選抜します。

- アドミッション・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと同様に、情報が得やすいように、法人ホームページ、各学部・研究科のホームページへ掲載するとともに、学生募集要項に掲載している。大学ポータルでも、本学ホームページ又は各学部・研究科ホームページへのリンクにより容易に閲覧できるようにしている。

《学生募集方法及び入学者選抜制度》

- 本学では、アドミッション・ポリシーに基づき、各学部・研究科において学生募集及び入学者選抜を行っている。入学者については、各学部・研究科に「入学者選抜委員会」を設置し、適切かつ公正な選考を行い、教授会・研究科委員会の審議を経て学長が決定している。また、入学者の選抜方法の改善及び入学者選抜の円滑な実施に資することを目的とした、全学組織の「アドミッションセンター」を設置し、各学部・研究科と連携して入試業務にあたっている。同センターは、入学者選抜方法の調査・研究及び企画・立案、入学者選抜結果の分析及び評価、学生募集に係る広報等に関する業務を担当している。

(大入試5-1 順天堂大学アドミッションセンター（入学センター）管理運営規程)

- 学生募集の方策として、ホームページや各種広報媒体に記事を掲載するだけでなく、高校や予備校等が主催する進学説明会への参加、高校訪問、遠隔地出身学生の夏季休暇等を利用した母校訪問、オープンキャンパスの複数開催等の取り組みを行っている。対面での開催に加え、オンラインも駆使し、学部長挨拶・説明、在学生による学部紹介動画の配信、オンラインによる進学相談や模擬面接の実施等、遠方の受験生のニーズにも応えられるよう配慮し、本学のアドミッション・ポリシーや選抜方法等を受験生に伝える機会を確保している。一部の学部では春にオープンキャンパスを実施することで、受験生への早期情報提供を図っている。また、オープンキャンパスの管理システム（申込・参加等）を全学で統一したシステムに切り替えている。全ての学部で同システムを利用することにより、申込者・参加者情報を迅速に確認することができるとともに、出願行動に結実しているかどうかの検証など精緻な分析を行うことが可能となっている。

(大国教5-1 2023(令和5)年度 国際教養学部 進学説明会)

(大国教5-2 2023(令和5)年度 国際教養学部 オープンキャンパス)

- ホームページでは、「大学の入試情報ページ」と「学部入試情報ページ」を分けることにより、興味・関心の段階に応じて、必要な情報を取得できるように努めている。例えば、大学で検索した場合は、「大学の入試情報ページ」で大学全体の最新ニュースなどを幅広く情報収集でき、そこから興味をもった学部を知りたい場合は、「学部入試情報ページ」を確認してもらうといった導線としている。
- 各学部では多様な学生を受け入れるため、その特性に応じた入学試験を実施している。例えば、医学部では、一般選抜、大学入学共通テスト・一般独自併用選抜、大学入学共通テスト利用選抜の他に、地域枠選抜、研究医特別選抜（総合型選抜）、国際バカロレア／ケンブリッジ・インターナショナル選抜（総合型選抜）、帰国生選抜、外国人選抜を実施している。また、医学部では全ての選抜方式で、医学部以外の学部でも多くの選抜方式で面接試験を課しており、学力試験だけでは測ることのできない意欲・資質・能力をアドミッション・ポリシーに基づき評価している。

医学部以外の学部でも、様々な選抜方式を設定するほか、一般選抜を複数回用意しており、本学を希望する学生に対して多くの受験機会を提供している。国際教養学部では、2023(令和5)年度一般選抜において、従来から実施している＜前期＞と＜後期＞の間に、新たに＜中期＞を設定して実施した。医療科学部及び健康データサイエンス学部では、2023(令和5)年度入試より、総合型選抜・

第5章 学生の受け入れ

学校推薦型選抜を地方試験会場で実施している。また、受験生を「育成する」という観点で、生徒の学ぶ意欲や姿勢を確認した上で、大学の学びに接続することを目的とした選抜方式を新たに導入し、2024(令和6)年度入試の総合型選抜において、医療科学部では総合的な探究の時間での取り組みや成果を発揮する「探究育成型」、健康データサイエンス学部では高等学校で履修した情報での学びを確認し、さらに伸ばすために「育成型：プログラミング力育成」を加えた。

- **大学院医学研究科**医科学専攻(修士課程)及び医学専攻(博士課程)では、4月入学者に対しては、一般入試、社会人入試、外国人留学生入試、外国在住外国人留学生入試の4種類を、10月入学者に対しては、外国人留学生入試、外国在住外国人留学生入試の2種類を実施している。外国在住外国人留学生入試は、外国人受験生が受験のためだけに来日することなく、書類審査やWeb会議システムを用いた口述試験により選考する特別入学試験制度である。外国人(特別永住者除く)の受験資格について、各課程ともに出願時点での日本語能力試験の合格実績は必ずしも要件とせず、国際化を目指す上で積極的に外国人留学生を受け入れることとしている。「国際交流センター」にて、外国人留学生の日本語能力のレベルに合わせた日本語講座を複数開講しており、入学後に日本語修得の機会を提供している。**大学院スポーツ健康科学研究科**博士前期課程では、出願区分は、「一般」の他、「社会人」「トップアスリート(スポーツ)」「外国人(留学生)」を設け、多様な背景を持つ者を受け入れている。出願書類のうち課題小論文(本学大学院で研究したいこと)の内容をもとに面接試験を実施し、評価している。博士後期課程では、語学試験(英語力を問う筆答試験)及び面接試験(出願者によるプレゼンテーションとプレゼンテーション内容及び志望動機等についての口頭質問)を総合して評価している。出願に際し、予め希望指導教員と面談を行い、研究計画をよく確認することを求めている。**大学院医療看護学研究科**博士前期課程では、専門科目及び英語(一般)又は小論文(社会人)並びに面接を実施している。専門科目は、研究指導可能な専門領域の中から、自らが進学を希望する科目とそれ以外の科目の2科目を選択して受験することとしている。博士後期課程では、筆記試験(英語)と口述試験を実施している。秋入学のグローバルナーシングコース(博士前期課程)、グローバルナーシングリーダーコース(博士後期課程)では、国外の受験者に受験機会を提供するため、オンライン上で小論文及び面接を実施している。

《入学者選抜実施のための体制整備》

- 学生受け入れに係る委員会は、下表のとおり整備している。各委員会の責任の所在と役割を明確にし、公正な入学者選抜の実施とその適切性の検証を行い、改善・向上を図る体制となっている。全学的組織としては、学長を委員長とする「全学入試委員会(学部)」及び「大学院入試委員会」を置き、入学試験に係る基本的な事項を審議している。各学部・研究科には、学生募集や入学者の選抜方法に関すること等を審議する「入試委員会」、入学候補者を選抜し合格者(案)を作成する「入学者選抜委員会」を置いている。また、学生受入れ全体の公正性・適切性を検証する委員会として、「入試検証委員会」を置いている。「入試検証委員会」は、他学部・研究科の教員1名以上を含み、「入学者選抜委員会」に関与しない者で構成し、「検証チェックリスト」に基づき、各プロセス(学生募集・選抜方法・選考方法等)の公正性・適切性を検証している。「入試検証委員会」の検証結果は、「入試委員会」に報告され、その検証結果を踏まえて、次年度の学生受け入れの戦略・立案を行っている。「全学入試委員会(学部)」及び「大学院入試委員会」では、各学部・研究科の「入試検証委員会」の検証結果を全学的視点で検証している。

(大入試5-2 順天堂大学全学入試委員会規程)

(大入試5-3 順天堂大学学部入学試験実施規程)

(大入試5-4 順天堂大学大学院入試委員会規程)

第5章 学生の受け入れ

(大入試5-5 順天堂大学大学院入学試験実施規程)

(大入試5-6 入試関連委員会体制図(学生受け入れにおける公正性確保の仕組み))

委員会	所管	責任者	審議事項
全学入試委員会 (学部)	アドミッション センター	学長	全学(学部)の入試に係る基本的事項・部門入試 検証委員会の結果
大学院入試委員会	アドミッション センター	学長	大学院の入試に係る基本的事項・部門入試検証 委員会の結果
入試委員会 (部門)	各学部・研究科	各学部長・ 研究科長	前年度の〔学生受入れ全体〕に関する入試検証 委員会の検証結果を踏まえて、次年度の〔学生 受入れ全体〕の戦略・立案
入学者選抜委員会 (部門)	各学部・研究科	各学部長・ 研究科長	属性を考慮せず、公正な選抜実施を確認 入学候補者を選抜、合格者(案)を作成
入試検証委員会 (部門)	各学部・研究科	各学部長・ 研究科長が 指名する者	検証事項チェックリストをもとに選抜方法・選 考プロセスを含む〔学生受入れ全体〕の公正性・ 適切性を検証 ※入学者選抜委員以外の者で構成

《公正な入学者選抜の実施》

- 公正な入学者選抜を行うため、合否判定で使用する選考資料には、選考に関係しない受験者の属性(氏名、性別、年齢、現役・浪人、出身高校等)を記載せず、合否判定基準に従って、受験者の成績に基づく判定が行われている。「入学者選抜委員会」において合否判定案が審議され、さらに教授会・研究科委員会の審議を経て、最終的に学長が決定する。これらのプロセスによって選考の透明性を確保しており、公正かつ適切に入学者選抜を実施している。
- オンライン試験の実施にあたっては、注意事項や実施手順に従い、不正行為の防止・円滑な実施に努めている。例えば、オンラインによる小論文試験においては、他の受験生と同タイミングで試験を開始し、カメラ・音声を常にONの状態とさせることで、不正行為の監視を行い、他の受験生と同条件での実施に努めている。

《入学を希望する者への合理的な配慮》

- 各学部・研究科では、身体の障がい・疾病等により受験及び修学、学生生活に特別な配慮を必要とする場合は、出願前に相談を受け付けており、障がいのある学生の権利や利益を侵害することとならないよう、受験上又は修学上の必要かつ合理的な配慮に努めている。具体的には、受験時の座席変更や車椅子での受験が必要な学生に対しては、高さを調整できる机を準備する等の対応を行っている。
- オンラインで試験を行う場合の公平な受験機会の確保については、事前に通信テストを行い、受験生の通信状況に問題ないことを確認した上で実施している。試験中に通信が途切れてしまうなど、不測の事態が起こった場合も、電話・E-mail・チャット等で連絡を取り、速やかに対応することとしている。実際に不測の事態が発生し対応したケースは生じていない。

《授業料その他の費用や経済的支援に関する情報提供》

- 各学部・研究科の学生募集要項・ホームページに、学費(授業料、施設設備費、実験実習費、教育充実費等)、学費減免制度、各種奨学金制度について掲載し、受験生に情報を提供している。適宜見直しを行い、受験生にとってより活用しやすい制度を目指している。例えば、医学部では2022(令

第5章 学生の受け入れ

和4)年度入試より、「特待生制度」を一般選抜A方式合格者の成績上位10名を対象とするように改定した。また、外国人選抜の入学者を対象とした「国際臨床医・研究医養成外国人学生奨学金」、基礎医学研究者を目指す学生を支援する「基礎医学研究者養成奨学金」、地域枠選抜の入学者を対象とした奨学金等があり、入学後の学生生活を支援する制度を設けている。

(大医5-1 学費・奨学金)

評価項目②

適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理していること。

<評価の視点>

- ・学士課程全体及び各学部・学科並びに各研究科・専攻の入学人数や在籍学生数を適正に維持し、大幅な定員超過や定員未充足の場合には対策をとっているか。

《定員管理の状況》

- 入学定員を遵守すべく、正確な定着予測に努めており、全学的に適正な管理を行っている。2023(令和5)年度における、入学定員に対する入学人数比率(5年間平均)及び収容定員に対する在籍学生数比率(過去3年分)は、下記のとおりである。収容定員に対する在籍学生数の極端な過剰又は未充足は生じていない。

	入学定員に対する入学人数比率 (5年間平均:2023年度)	収容定員に対する在籍学生数比率		
		2021年度	2022年度	2023年度
学士課程 計	1.02	1.00	1.00	1.00
医学部	1.00	1.01	1.00	1.00
スポーツ健康科学部	1.02	1.00	1.01	1.02
医療看護学部	1.00	1.00	0.99	1.00
保健看護学部	1.03	1.03	1.03	1.02
国際教養学部	1.00	1.00	0.98	0.96
保健医療学部	1.01	1.01	1.00	1.01
医療科学部	1.01	—	1.01	1.01
健康データサイエンス学部	1.01	—	—	1.01

修士課程 計	1.23	1.16	1.24	1.28
医学研究科	1.47	1.41	1.47	1.56
スポーツ健康科学研究科	1.01	1.02	1.05	1.07
医療看護学研究科	1.12	1.02	1.17	1.12
保健医療学研究科	2.80	—	—	2.80

博士課程 計	1.07	1.06	1.03	1.03
医学研究科	1.05	1.01	1.01	1.02
スポーツ健康科学研究科	1.50	1.87	1.57	1.33
医療看護学研究科	0.95	1.27	1.06	1.09

(大学基礎データ 表2)

- 各学部・研究科ともに、志願者数の増加に応じて、適切に入学定員増を行い、在籍学生数が過剰とならないように対応している。入学定員増をしたことで未充足とならないよう、ホームページ等により適切に入試広報を行っている。

第5章 学生の受け入れ

医学部では、これまで段階的に入学定員の増員を行っている。2021(令和3)年度に、政府の「経済財政運営と改革の基本方針2018(平成30年6月15日閣議決定)」を踏まえた増員計画を文部科学省へ申請して認可され、この臨時定員(33名分)が2022(令和4)年度で終了となった。政府の「経済財政運営と改革の基本方針2019(令和元年6月21日閣議決定)」を踏まえた地域の医師確保等の観点からの医学部入学定員の増加について、2022(令和4)年度に文部科学省へ35名の増員申請を行い認可されたことから、2023(令和5)年度の医学部入学定員は140名となった。

平成21年度定員 105名→110名	平成29年度定員 130名→137名
平成22年度定員 110名→119名	平成30年度定員 137名→140名
平成23年度定員 119名→120名	平成31/令和元年度定員 140名
平成24年度定員 120名→121名	令和2年度定員 140名→135名
平成25年度定員 121名→124名	令和3年度定員 135名→136名
平成26年度定員 124名	令和4年度定員 136名→138名
平成27年度定員 124名→127名	令和5年度定員 138名→140名
平成28年度定員 127名→130名	

医学部以外の教育研究組織における入学定員増は以下のとおりである。社会的要請や国際的環境に配慮し、入学定員を大きく上回る志願者を集められている学部・研究科では、段階的に定員増を行っている。**スポーツ健康科学部**では、スポーツや健康・体力づくりへの関心が高まり、入学定員を大きく上回る志願者を集めていたことから、2度の定員増を経て、約2倍の規模に定員を拡充した。2021(令和3)年度の定員増では、学科を再編(3学科から1学科6コース制)し、スポーツへの科学的視点を一つの教育課程にまとめ、スポーツの可能性を多角的に学ぶことができるように整備した。**国際教養学部**でも、入学定員を大きく上回る志願者を確保していたことから、2019(令和元)年度に定員を倍増した。**医療看護学部及び保健看護学部**は、入学定員を大きく上回る志願者数を確保するとともに、地域の看護師需要の増加が予測されたことから、2022(令和4)年度、2024(令和6)年度に定員増を行った。

年度	学部・研究科	入学定員
2017(平成29)	スポーツ健康科学部	330名→410名
2019(令和元)	国際教養学部	120名→240名
	医学研究科修士課程	20名→30名
	医学研究科博士課程	140名→160名
	医療看護学研究科博士前期課程	15名→20名
	医療看護学研究科博士後期課程	7名→10名
2020(令和2)	医学研究科修士課程	30名→40名
	医学研究科博士課程	160名→180名
	医療看護学研究科博士前期課程	20名→25名
2021(令和3)	スポーツ健康科学部	410名→600名
	医学研究科修士課程	40名→60名
2022(令和4)	医療看護学部	200名→220名
	保健看護学部	120名→130名
	医療看護学研究科博士前期課程	25名→29名
	医療看護学研究科博士後期課程	10名→12名
2024(令和6)	保健看護学部	130名→160名

第5章 学生の受け入れ

評価項目③

学生の受け入れに関わる状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。

＜評価の視点＞

- ・学生の受け入れに関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。
- ・点検・評価の結果を活用して、学生の受け入れに関わる事項の改善・向上に取り組む、効果的な取り組みへとつなげているか。

- 本学は、毎年度、大学、各学部・研究科、管理部門等の単位で、(公財)大学基準協会の大学基準に準拠し、内部質保証の推進に必要な自己点検・評価を行っている。学生の受け入れの公正性・適切性は、アドミッションセンター、各学部・研究科において、それぞれ根拠資料に基づく点検・評価を行っている。点検・評価を通じて認識された問題点は、当該部署を中心に改善に取り組み、次年度末までに内部質保証推進委員会に改善状況を報告することとしている。各部門より報告された問題点及び改善状況は、一覧表にまとめられ、全学的な観点で自己点検・評価運営委員会及び内部質保証推進委員会で検証された後、学長に報告される。学長は更なる改善が必要な場合には、必要な指示を出すという仕組みになっている。
- 内部質保証システムによる点検・評価だけでなく、入試検証の枠組みによる点検・評価(本章P.55～56)も併せて実施している。まず、各学部・研究科に設置する「入試検証委員会」で、検証チェックリストに基づき、前年度に行われた学生受け入れ(学生募集、出願手続、個別学力検査、小論文、面接、合否判定、合格発表、入学者確定など)の公正性・適切性を検証する。入試検証委員会の検証結果は、「入試委員会」に報告され、同委員会はその結果を踏まえ、入試日程・選抜方式・募集人員等を検討し、次年度の学生受け入れ戦略を立案する。次に、全学的な視点により、「全学入試委員会(学部)」及び「大学院入試委員会」において各学部・研究科の入試検証委員会の検証結果を総括し、「内部質保証推進委員会」に報告する。同委員会では、本学で実施した2023(令和5)年度入学者選抜及び2024(令和6)年度入学者選抜が公正かつ適切に行われたことを確認している。
- アドミッション・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとともに一体的に改正されるべきものであり、内部質保証推進委員会では、各学部・研究科に対して定期的に改正の検討を指示している。ポリシーの改正は、教授会・研究科委員会の下部組織である各種委員会での検討を経て、教授会・研究科委員会で審議した後、学長が主宰する大学協議会にて大学全体の視点から検証を行い、改正を行っている。

《学生募集や選抜方法等に関する改善・向上の取り組み》

- 内部質保証や入試検証の取り組みにより、近年、学生募集や選抜方法等に関して改善・向上に繋がった事例は以下のとおりである。
 - ① 全学的な取り組みとして、年内入試への定員シフトを行っている。総合型選抜、学校推薦型選抜などの年内入試が優勢となる状況を踏まえ、全学部での年内入試の定員比率を47%(2023年度入試)から49%(2024年度入試)に引き上げた。また、他大学との入試日程重複の対策として、一般選抜における複数の受験日程や大学入学共通テストの成績を活用した選抜方式を設けるなど、受験機会の確保を図っている。さらに、外国人留学生を確保するための方策として、日本学生支援機構(JASSO)が主催する留学生向け進学説明会への参加、外国語による学部案内の制作、進学情報サイト・進学情報誌への出稿等の広報を強化している。
 - ② 各学部・研究科の取り組みとして、国際教養学部では、2023(令和5)年度入試より、これまで「総

第5章 学生の受け入れ

合型選抜」に含まれていた「国際バカロレア選抜」「海外帰国生選抜」「外国人選抜」をそれぞれ独立した選抜方式とし、併せて出願要件の見直しを行った。また、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」の出願数の増加を図るため、「学校推薦型選抜」における指定校枠の出願要件の緩和や、スポーツや文化・芸術活動、その他特殊な能力や活動実績を有する者を募集する「総合型選抜（活動実績型）」の新設、高大連携締結校で本学プログラムに参加して修了証を授与された者が出願できる「高大連携特別推薦制度」の設置を行っている。**医療看護学部**では、2024(令和6)年度入試より、「総合型選抜」を新設し、多様な学生の確保、受験機会の創出を図った。また、入学定員に占める年内入試の比率を増やし、優秀な学生の早期確保にも繋がった。

(大大評2-27 第17次(令和4年度)自己点検・評価報告書 問題点及び改善策 まとめ)

(大大評5-2 自己点検・評価運営委員会(R6-1)議事録_令和6年5月)

(大大評4-15 内部質保証推進委員会(R6-2)議事録_令和6年6月)

《入試の公正性・適切性の確保に関する改善・向上の取り組み》

- 入試の公正性・適切性の確保に関する改善事例は、以下のとおりである。

- ①受験生への成績開示に関して、2022(令和4)年度入試(2021(令和3)年度実施)より、「希望する受験生本人への成績開示」を行うこととして準備が進められ、2022(令和4)年5月に全学部で成績開示が行われた。
- ②入試検証委員会で使用する「検証チェックリスト」について、従来は、検証項目のチェック欄について「適切」と「要改善」のみ設けていたが、検証項目を「必須項目」と「努力項目」に分けるとともに、チェック欄に「対応済」「未対応」「改善余地有」の三列を設ける様式に見直した。2022(令和4)年度入試(2021(令和3)年度実施)以降、新様式による検証作業を行っている。
- ③2024(令和6)年度入試の検証の結果、チェックリストで「受験者に関係者・親族がいる教職員は関与させていない」としていた項目について、関係者・親族の定義を明確にし、「受験者に教職員本人及び配偶者(事実上の婚姻関係にあるパートナーも含む)の3等親以内の親族がいる教職員」とすることを決定した。
- ④医療看護学部では、入試検証委員会の指摘(小論文試験において、作問担当者間で作成した採点基準が文書化されていない)を受け、入試委員会にて採点基準を整理した「小論文ガイド」を作成している。

(大大評5-3 順天堂大学入学者選抜の検証要領・大学院入学者選抜の検証要領)

(大入試5-7 検証事項チェックリスト)

(大入試5-6 入試関連委員会体制図(学生受け入れにおける公正性確保の仕組み))

(大入試5-8 全学入試委員会・大学院入試委員会議事録_2023(令和5)年5月)

(大大評2-24 内部質保証推進委員会(R5-3)議事録_令和5年6月)

(大入試5-9 全学入試委員会・大学院入試委員会議事録_2024(令和6)年5月)

(大大評5-4 内部質保証推進委員会(R6-3)議事録_令和6年6月)

2. 分析を踏まえた長所と問題点・課題

2-1. 長所

1) 「求める人物像」に則した学生の確保

各学部・研究科では、学生募集要項や入試情報ウェブサイトにアドミッション・ポリシーを明示

第5章 学生の受け入れ

し入学試験を行っているが、その特徴として、多くの選抜方式で面接試験を課していることが挙げられる。医学部、医療看護学部、保健看護学部ではほぼ全ての選抜方式で、その他の学部でも年内入試を中心に面接試験を課しており、学力試験だけでは測ることのできない意欲・資質・能力を評価している。面接試験では、志望理由等を通じて本学へ入学する目的意識や学習意欲を確認するとともに、受験生の資格や能力、特徴を示す資料（TOEFL・IELTS・TOEIC・英検・漢検・各種段位・免許書・表彰状等の証明書、記念品、広報紙等）があれば持参させ、説明を求めている。これらを経験することで、各学部・研究科で求める人物像とのミスマッチを回避し、将来に対する強い目標や豊かな感性・教養、主体性・多様性・協働性を兼ね備えた入学者の選考に繋がっている。

2) 多様な選抜方式

本学が求める意欲と資質を有した学生を国内外から選抜できるよう、学部では、一般選抜に加え、大学入学共通テストを利用した選抜方式、TOEFL・IELTS・国際バカロレア等の外部英語資格・検定試験結果を活用した選抜方式、外国人留学生選抜や帰国生選抜等を実施するほか、医学部以外の学部では一般選抜を複数回実施している（本章P.3～4）。本学への受験を希望する受験生に対し、多くの受験機会を提供しており、受験者の確保や多様な学生の受け入れに繋がっている。大学院に関しても、前述（P.4）のとおり、英語による授業・研究指導のみで学位が取得できるカリキュラムの整備や秋入学による外国人留学生の受け入れ開始などにより、海外からの受験者・入学者が増えている。

3) 入試の公正性・適切性の確保

各学部・研究科では、全学入試委員会（学部）・大学院入試委員会で定めた「入学者選抜の検証要領」に基づき、学生受入れ全体の公正性・適切性を検証する「入試検証委員会」を設置するとともに、文部科学省「大学入学者選抜の公正確保等に向けた方策について（最終報告）」（2019（令和元）年5月）に基づいて策定した「検証事項チェックリスト」を通じて、選抜方法・選考プロセスを含む学生受け入れ全体の公正性・適切性を検証している。チェックリストの導入により、統一的な基準できめ細かな点検・検証が可能となり、入学者選抜プロセスの公正性・適切性の確保に繋がっている。

2-2. 問題点・課題

18歳人口の減少に伴い、大学進学者数の減少が進むことが予測される中、学生募集に苦慮している学部も確認できていることから、安定的な学生の確保が課題となっている。以下の点について改善の余地があると考えられる。

1) 全国からの受験生の確保

学部における志願者の状況を見ると、依然として70%以上が関東地方からの出願となっている。全国から優秀な学生を確保するべく、関東以外の地域でも積極的に広報を展開するとともに、地方会場による試験の拡充など、受験しやすい環境を整えていく必要がある。また、全国各地で開催される進学相談会や高等学校での進学説明会に対して、これまで学部単位で参加し、当該学部の説明に留まっていた。参加した高校生のなかには他の学部についても情報を求められるケースもあり、要望に十分に対応できたとは言い難い。

2) 高大連携の成果・課題の検証

第5章 学生の受け入れ

本学では、国際教養学部の開設を機として、2015(平成 27)年の昭和第一高等学校を皮切りに、2024(令和 6)年 3 月までに 30 の高等学校と教育提携協定を締結している。教育提携協定を締結した高等学校との交流事業として、生徒を招いた大学・施設の見学会や本学の教職員による出張講義等を行っており、高校生の進路選択を後押しするとともに、本学の教育・研究の魅力を伝える重要な機会となっている。連携先の高等学校からの要望等に基づき、本学の教育リソースを活用した交流事業を展開しているが、その成果・効果、課題についての検証が行われていない。高等学校と大学双方による点検・評価を行う必要がある。

3) 海外からの受験生の確保

各学部・研究科では、留学生や帰国生の確保に向けて段階的に選抜方法の見直しや受け入れ規模の拡大を進めている。留学生に関しては、入学者数は徐々に増えているものの、在学生全体に占める割合は約 2.5%(2023(令和 5)年 5 月時点)と、低い水準に留まっている。帰国生に関しては、予備校の帰国生支援コースへの訪問や同校による大学説明会に参加し、大学・学部の認知拡大、幅広い学びを訴求する広報を行っているが、2023 年度入試より全学部で帰国生を対象とする入学試験を整えて間もないこともあり、より一層広報を強化していく必要がある。

また、以下についても全学的な対応が求められる。

4) 障がいのある学生の受け入れ支援

入学者選抜における障がいのある学生に対する支援に関しては、各学部・研究科で個別に対応している。『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律』の改正に伴い、私立大学においても 2024(令和 6)年度より当該学生に対する「合理的配慮の提供」が新たに義務付けられることから、改正法を踏まえた今後の受験上あるいは修学上の配慮の在り方・方針等について検討していく必要がある。

5) アドミッション・ポリシーの見直し

大学院研究科のアドミッション・ポリシーについて、入学前の学習歴、学力水準、能力を示していないため、改善が必要である。

3. 改善・発展方策

3-1. 長所の発展方策

1) 「求める人物像」に則した学生の確保

受験生の中で進路選択の時期が早期化し、年内入試による志願者が増加している傾向を踏まえ、引き続き年内入試(総合型選抜・学校推薦型選抜)を重視し、入試情報の早期公開に努める。また、学力だけでなく人物・意欲・資質等を見極める選抜を行うべく、面接試験の方法・成果に関する検証を進めるほか、アドミッション・ポリシーに合致した学生を確実に確保する選抜方法の検討を行っていく。

2) 多様な選抜方式

学生の安定的な確保に向けて、各選抜方式による学生受け入れの結果に関する十分な検証・分析を行う。アドミッションセンター、全学入試委員会(学部)、大学院入試委員会、各学部・研究科の

第5章 学生の受け入れ

入試委員会が連携し、受験機会の拡大、学力・人物・意欲・資質等を効果的に評価できるよう、入学者選抜方法の調査・研究を重ね、継続して入試制度の改革に取り組む。また、高等学校での情報科目必修化や女子学生の理系進路選択支援をはじめとする入試を取り巻く環境の変化に対応しながら、アドミッション・ポリシーに基づき、入試方法の多様化、評価尺度の多元化に努める。

3) 入試の公正性・適切性の確保

「検証事項チェックリスト」を通じた検証が定着し、今後は各学部・研究科と連携しながら検証項目のブラッシュアップや指摘事項のフォローアップを図り、入学者選抜プロセスの公正性・適切性を検証する作業の効率化や質向上を目指していく。

3-2. 問題点・課題の改善方策

1) 全国からの受験生の確保

2023(令和5)年度入試より、一部の学部・選抜方式で地方会場による試験を実施しており、その実績や成果を十分に検証の上、継続や拡充について検討していく。

全国各地で開催される進学相談会や高等学校での進学説明会に、学部とともにアドミッションセンターも参加し、全ての学部について情報を提供できるよう体制を整備する。

医療技術系統への志願状況が減少傾向であることも勘案し、診療放射線技師や臨床検査技師などかどのような職業なのか、入学から卒業後のキャリアパスも含めた情報提供を検討するほか、オープンキャンパスや進学相談会、高校訪問、高大連携の取り組みなども活用し、本学が志願する選択肢として挙がるよう、広報の強化を図っていく。

2) 高大連携を通じた受験生の確保

各学部における高大連携の取り組みと成果・課題の検証に向けて、連携先の高等学校との定期的な意見交換の実施を検討する。本学の教育リソースをフルに活用し、交流事業の質を高め、本学の学びに対する高い意欲と目的意識を持った受験生の確保に繋げていく。

3) 海外からの受験生の確保

アドミッションセンター、各学部・研究科が連携し、留学生・帰国生の確保に向けた効果的・効率的な選抜方法を検討する。

現在行っている予備校の帰国生支援コースへの訪問に加えて、日本での進学を希望する外国人学生への情報提供が期待できる「認定日本語教育機関」への広報を強化していく。

国際交流センターとも連携し、留学生の生活を支援する体制の更なる充実を図り、学修環境に関するアピールも行っていく。

4) 障がいのある学生の支援

現在、法人部門で、各学部・研究科における障がい者に対する支援を統括し、全学的な対応を検討・推進するための組織の設置を計画しており、当該部署と連携して、学生の受け入れに関する対応の充実を図っていく。

文部科学省が通知する『大学入学者選抜実施要項』において、各大学に対し、入学試験における合理的配慮の申請を行う際の手続きを明確に示すこと等を求めていることから、各学部で設けている申請様式の統一を検討する。

第5章 学生の受け入れ

5) アドミッション・ポリシーの見直し

該当する研究科においては、アドミッション・ポリシーの見直しを検討する。

4. 全体まとめ

アドミッション・ポリシーは、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえ策定しており、求める学生像、大学入学までに身に付けておくべき教科・科目、入学者選抜の基本方針等が示されている。

入学定員、収容定員、選抜方式、授業料その他の費用や経済的支援に関する情報等は、大学のホームページや学生募集要項に掲載し、受験生・保護者をはじめ社会に広く公表している。各学部においては、オープンキャンパスや進学説明会にて教育内容、キャンパスライフ等の説明を行い、個別相談にも応じている。多様な学生を受け入れるため、その特性に応じた入学試験を実施している。各研究科においては、希望する研究指導教員との研究内容の確認を行う等、入学後のミスマッチが起きないように取り組んでいる。

入学者数については、入学定員を遵守すべく、正確な定着予測に努めており、全学的に適正な管理が出来ている。収容定員に対する在籍学生数についても、極端な過剰又は未充足は生じていない。

学生の受け入れの適切性の点検・評価については、各学部・研究科では、「入試検証委員会」にて、検証チェックリストを用いて定期的に検証を行っている。その結果は、全学的観点から「全学入試委員会（学部）」及び「大学院入試委員会」で検証し、総括している。また、各学部・研究科の「入試検証委員会」の検証結果は自己点検・評価報告書に纏められ、「内部質保証推進委員会」にて、自己点検・評価報告書の内容に基づき、学生の受け入れが公正かつ適切に行われたことを確認し、必要な改善を図っている。

第5章 学生の受け入れ

5. 根拠資料

資料 No.	各部署の 資料整理No.	資料名称
1	大大評5-1	法人ホームページ「各種方針」「アドミッション・ポリシー」 https://www.juntendo.ac.jp/about/pr/policy/
2	大入試5-1	順天堂大学アドミッションセンター（入学センター）管理運営規程
3	大国教5-1	2023(令和5)年度 国際教養学部 進学説明会
4	大国教5-2	2023(令和5)年度 国際教養学部 オープンキャンパス
5	大入試5-2	順天堂大学全学入試委員会規程
6	大入試5-3	順天堂大学学部入学試験実施規程
7	大入試5-4	順天堂大学大学院入試委員会規程
8	大入試5-5	順天堂大学大学院入学試験実施規程
9	大入試5-6	入試関連委員会体制図（学生受け入れにおける公正性確保の仕組み）
10	大医5-1	学費・奨学金
11	大大評5-2	自己点検・評価運営委員会(R6-1)議事録_令和6年5月
12	大大評5-3	順天堂大学入学者選抜の検証要領・大学院入学者選抜の検証要領
13	大入試5-7	検証事項チェックリスト
14	大入試5-8	全学入試委員会・大学院入試委員会議事録(2023(令和5)年5月)
15	大入試5-9	全学入試委員会・大学院入試委員会議事録(2024(令和6)年5月)
16	大大評5-4	内部質保証推進委員会(R6-3)議事録_令和6年6月